

第1回東広島市総合計画審議会部会会議録  
【人づくり】

日時：令和6年5月7日（火）18：00～

場所：東広島市役所本館3階 303会議室

1 開会

（事務局）

本日はお忙しい中ご出席いただき御礼申し上げます。ただ今より「第1回東広島市総合計画審議会人づくり部会」を開会する。本日、事前に欠席連絡のあった加納委員はオンラインにて参加いただいている。

東広島市総務部政策推進監サブマネージャーの前田である。よろしくお願ひ申し上げます。

本日は第1回目の部会である。東広島市総合計画審議会運営規則第2条により、原則公開で行うことになっているが、公開することに対し異議はないか。

（異議なし）

本審議会は同じく運営規程により、会議録を作成し、公開することとしているため、会議の録音及び会議録の公開について、ご了承いただくようお願いする。

本日は市役所より、部会の施策を担当する部局の職員も出席をしている。

それでは、議事に入る。ここからの進行は部会長に議長を務めていただく。

## 2 議事

(島本部長)

部長を務める島本である。

本日の議事は、前期計画の振り返りとして、配布資料の「目指す姿に対する現状」について、ご議論いただく。

オンラインで参加の加納委員も問題ないか。

(加納委員)

本日、子供が熱を出したため、オンラインでの参加となった。日々、こういった形で子育てをしながら働いている。

(島本部長)

この人づくり部会が第1回部会の最後であり、各人の経験や専門性を踏まえてご意見いただきたい。

それでは、前期計画の振り返りについて、事務局の説明を求める。

(1) 前期計画の振り返りについて

【人づくり】

(事務局より配布資料に基づき説明)

### 3—1 人権・平和の尊重と男女共同参画の推進

(加納委員)

「目指す姿に対する現状」の文言は、そのまま資料として残るのか。施策1の資料中、「人権尊重の意識着実に」は脱字と考える。

(事務局)

誤字・脱字失礼した。なお、この文章はそのままは掲載されない。

(弓場委員)

女性会では14市町で年1回の研修を行っているが、皆熱心で人権に関する問題は起きていないと考える。

そんな中、偶然会った小学生から先生とトラブルがあるという話を聞いたため、みんな仲良く過ごして欲しい。

(倉本委員)

スポーツ協会・団体の代表は男性が圧倒的に多く、理事会などでも男性ばかりで、女性は全体の1割程度である。今、スポーツは競技に限らず、子供から高齢者まで心と身体づくりのために行うもので、女性の意見は非常に重要である。女性で参加したい方がいれば、積極的に登用していく。

また、産業でも商工会の女性役員が少ない。男女共同参画は長年続けているがあまり進んでいないため、皆で協力して進めていきたい。

(弓場委員)

いろいろな会合に参加するが近年変わってきている。例えば、席次の男女別がなくなったり、女性委員数が増加する、東広島市の女性管理職職員や議員が増えるなどある。先日の男女共同参画に関する会議でも、女性委員が増えているとの意見もあり、男女差は解消しつつあると考える。

(柏崎委員)

子供周りでは、学校では出席番号が男女混合となり、「君・さん」の呼びが「さん」に統一するなど、子どもからの取り組みが行われているところもある。子供の頃からそういった意識付けをすることは重要である。しかし、別の学校ではそういった取り組みをしていないため、広がってほしい。

(石原委員)

小さい子供はよい環境にあるが、今の大学生では女子学生が男子学生の世

話をするのが当たり前、男子も世話されて当たり前、という意識もある。女性は世話をすることが忙しく、代表などになる余裕がない面もあるのではないか。家庭科の必修化もあって家事スキルの向上はあったが、男性であっても自立を進めていかなければならない。育休をとってもスキルがなくては意味がない。

(弓場委員)

男女共同参画を進める会において、女性から男性、男性から女性に対するもやもやを題材にした「もやもや川柳」を募集した。女性ばかりが家事をするというものがあつた一方で、家庭の中での役割分担もそれぞれ有るのだと思つた。

### 3—2 乳幼児期における教育・保育の充実

(柏崎委員)

幼保小連携はまだ始まったばかりと聞いている。幼稚園と保育所など所管が違うことによる難しさもあるが、是非連携を進めてほしい。特に小学校に上がる時の子どもの情報の共有は重要と考えている。

(加納委員)

指標のアンケート結果の出典が見つけれなかったため、教えていただきたい。「子どもの育ちを実感できる」とはどのような状況か。

東広島市の環境は変わっており、子育てしやすいまちを発信したいのだと思うが、市のアピールポイントがわかりにくいと考えている。市としての特色を打ち出せばよい。

(中村こども未来部長)

アンケートについて、「子ども・子育て支援事業計画」にて、乳幼児期の教育・保育の部会を開催している。「乳幼児教育・保育アクションプラン」の取

組として、部会の外部アドバイザーによる保育所の巡回や遊び場の整備、保護者の意見収集、などを行っている。その中で保護者アンケートとして、「子どもの育ちを実感できるか」の設問があり、毎年状況を把握している。

「子育てするなら東広島」のアピールポイントがわかりづらいことは、課題として認識している。子どもを産み育てられるための切れ目のない支援が重要と考えており、「子育てするなら東広島」が目にとまるよう、アピールしていきたい。

（加納委員）

切れ目のない支援は重要であるが、部局をまたぐ話として、ハード面で外に遊びに連れていく場所や公園のトイレの整備、子どもを世話しながらのオンライン参加など、子どもを育てていくための横断的な取り組みがあればよいと考える。

（柏崎委員）

私は子供が多く長年子育てを続けているが、昔はなかったサービスができ、変わってきているという意見に共感している。例えば、保育園ではスマホを用いて登園を確認して、ネットで写真が送られるようになってきており、子供の育ちの実感につながっているのではないかと感じる。

（倉本委員）

子どもが住みたいまち、子どもと親らの三世代が笑顔になれるまちというのが、理想だと思っている。

### 3—3 高い教育力と伝統を活かした学校教育の実践

（加納委員）

「生きる力の育成が進んでいるが、不登校が増加している」という文章があるが、不登校が否定的に書かれている。多様性のある学びや保護者の価値

観を考えると、表現において気を付けるべきではないか。不登校の増加自体は事実だと思うが、東広島市としてどう考えているか。

（武上教育総務課長）

これまでであった学校に行かなければいけないという意識が嫌ならいかなくてもよいと、保護者の考えも変わってきている。学校に行かずとも、スペシャルサポートルームや支援センター、フリースクールなど、どこかで社会とつながっていれば助けるチャンスはある。不登校が悪いという意識は薄れているが、全国的な事実として不登校が増加しているという事実を記載した。

（加納委員）

不登校を経験した人を知っているが、その後が重要である。人とつながりがあればとの話があったが、不登校を経験した人は、人と接することに非常に気を使う、人とのつながり、リアルな人づきあいが苦手な人もいる。若いうちに人とのつながりを経験しておかないと、その後の勉強や仕事で苦労してしまう傾向がある。それらを踏まえたうえで不登校を受け入れるという話にすべき。

（ジョン委員）

私は日本の小中学校に通った経験はないが、交流会などに参加したことはある。理系教育の重要性を感じている。

（柏崎委員）

デジタルや IC については学校によって活用やルールにばらつきがある。タブレットの使用方法でも、学校でしか使わない学校もあり、慣れるために機器を使える環境にしてほしい。

（武上教育総務課長）

学校間で活用に差はある。今後、デジタルドリルによる自動採点や苦手な分野の把握など、デジタルを使うことによる学校や先生にとってのメリット

を増やして、推進していきたい。

（弓場委員）

子どもの不登校でも、昔は地域で周りの目というものがあつたが、今は自分が重要という人が増えた。一部では、周囲の目を気にすることが残っているように感じる。

（倉本委員）

私は人のためにと社会福祉協議会を通じた活動もしているが、私から見ると子供や子育て世代が意見を言える環境が本当にあるのか、高齢者世代によって押さえつけられていないか。若い意見をもっと取り入れるため、自分たちが子供であつた時の常識を変えていかなければならない。その環境づくりのために、人づくり部会の委員各位が子供たちを気にかけて、声をかけていかなければならない。年齢にかかわらず皆が住みやすいまちとするためには個の力だけではなく、皆の力が必要である。

（柏崎委員）

若い世代の意見を取り入れるという意見があつたが、自分たちの世代は日常に手いっぱい、地域などにまで行く余裕がないのではないか。周りに目を向けて自分でもやって見れるような環境づくり、心の余裕を持ちたいを思う。

（石原委員）

世代に関する意見では、若い人たちはすごく頑張っていると思う。昔は小学校の運動会の後で市民運動会なども開催していたが、その目的は地域の人達が参加して元気になることであるため、お年寄りたちの力も利用してよいと思う。頼られて活動することが健康寿命の延伸にとっても重要であると思う。

(石原委員)

ICTに関し、大学でパソコンを使った授業も行うが、高校によってもオンライン授業やタブレットの習熟度などが大きく違う。使いこなせる自由に活用できるかは教師の技量によるところが大きく、環境を使いこなせていないといけない。

タブレットやスマホは便利だが、そればかりを使ってパソコンのタイピングができない生徒も増えている。大学でタイピングを教える授業があるが、スマホの画面だけで作る文章でなく、キーボードを用いて適切に推敲した文章を作れるようになる必要がある。

### 3—4 新たな価値を創造する人材の育成

(ジョン委員)

大学では学部が理系・文系で別れて授業を受けることが多いが、大学に入り理系も学ぶことによって理解できるようになった。幼いころから理系も学ぶ機会があれば、視野が広がるのではないか。

(石原委員)

ぜひ小さい時から理系分野を学ぶ機会も作ってほしい。文系の学生は数字分野ができないと思っており、就職する上での抵抗となっている。可能性を広げるために、小さいころから馴染んで自信をつけさせるべき。

(弓場委員)

文系においても理解力の向上は理系にも通じることだと感じる。

(柏崎委員)

小中では大学とのコラボの機会が少ないため、連携を小中学校の段階から進めてほしい。子供の頃から広大に馴染むようになってほしい。

(武上教育総務課長)

例えば、近畿大学と連携した3Dプリンタの活用や広大の学生と連携した出前講座などで連携している。

また、ICTではICT支援員を今年度から2名増加の4名体制とし、現場の負担を減らしながら推進している。

(石原委員)

広島国際大学は医療や福祉以外の取組も行っており、協力の話があればぜひ取り組みたい。

(倉本委員)

広大の卒業生のうち、9割は他県へ行くという話があったがこれは事実か。もし本当ならばさみしい話である。

(事務局)

広大は元々7割が県外から来ている。卒業生のうち東広島市の企業へ就職している割合は3%に過ぎず、少ない状況にある。地元企業としては就職してほしいため、商工会としても定着してもらうよう取り組んでいる。

(倉本委員)

商工会だけで頑張るには限界があるため、連携して取り組んでほしい。

(事務局)

大学卒業時に県外へ流出している人も多いが、一方で東広島市へ就職している人も多くいる。一方で、我々の子供世代が外へ出て行っていることを課題と認識している。これは何か一つの取組で解決できることではなく、総合的に取り組んでいく必要がある。

(石原委員)

国際大学は医療系も多く、就職先があることや元々県内から通っている子供も多いため、県内への就職が多いと感じている。

(加納委員)

一方で、自分達の子供が県外に行きたいという思いがあるときに、果たして留まってと言えるか。そう考えると、一度出ていった人が県内に戻ってきたときに受け入れる体制も重要である。ずっと市内だけに住み続けることがよいのかという話もある。

(石原委員)

私の子供も東京へ行っているが、ずっと同じ場所に住み続けるのではなく、一度人の多いところの生活を経験することを勧めた。そこで経験したことを市内で生かせる機会を作ることが重要である。

### 3—5 知的資源と国際性を活かした人づくり

(ジョン委員)

私は学校へ訪問したことはないが、自分の国の紹介をしたことがある。言語が通じるだけでなく、市民や子どもたちに文化などを伝えることもグローバルマインドとして重要だと思っている。そのために、外国人が直接紹介する機会が増えればよいと思っている。

私は学校を通じた交流の経験しかないが、地域交流の機会などもあればよいと思う。

(伊藤生涯学習部長)

大学との連携として、「東広島学」「サマーカレッジ」「ひとまち塾」など学生と市民と一緒に学ぶ講座を設けている。学生は科目として参加してくれるが、住民の少ないことが課題であり、どう広げるかが問題となっている。

(石原委員)

国際大学では今年度から地元学を開いているが、まだ地域の人に来てもらうための講座となっていない。参加することによって地域の人にとっても新しい発見があればいいと思う。

JICA との協力は行っているのか。

(事務局)

JICA と協力し、各コースで専門技術を学ぶとともに、日本文化に触れるための交流や社会勉強などを開催しており、市民参加の機会を設けている。

### 3—6 市全体が「学びのキャンパス」となる環境づくり

(倉本委員)

東広島市の施設として、運動公園が1つしかないなど、不足している。以前、使用状況を調べてもらったが、市民が使える施設は月曜から金曜までいつも予約で埋まっていた。スポーツ振興では、やりたい人が多いもののやる場所がない。中四国のスポーツ大会を条件の良い東広島市でやりたいという人は多いが、開催可能な施設がない。市民や障害者がスポーツをしようとしても、場所取りが大変となっており、やりたくともできない人が多い。このことを一番言いたい。

(伊藤生涯学習部長)

ご指摘の通り、施設が不足しているのはその通りである。しかし、新規施設をすぐに建設することはできないため、既存施設の精緻化・特徴化を行い、各スポーツで利用できるよう取り組んでいる。

(倉本委員)

是非予算を付けて実施していただきたい。

(神笠生涯学習次長)

東広島市は場所的に集まりやすく地方のスポーツ大会を開催したいという話は多くある。スポーツツーリズムなどの経済効果という面からも有効である。課題としてしっかり取り組んでいく。

(倉本委員)

東広島市では、海外からの選手団の受け入れの事例も多い。そこでの交流を通じて、東広島市でスポーツをしようとなればよいと思う。

(島本部長)

集合型オンライン講座はどのように行われているのか。

(神笠生涯学習次長)

昨年度試験的に行ったものであり、黒瀬の1会場で行った講義を他の会場へ繋げる講座である。その結果を踏まえ、今年度も試みる予定である。

(弓場委員)

くららを使用した際に必要な書類が多かったため、もう少し楽に使えるようにしてほしい。また、くららの駐車場が離れており、もう少し会場として使いやすくしてほしい。くららを集会等で使いたいという話はあるため、もう少し楽に使えると考える。

(石原委員)

私は公共施設の指定管理者の外部評価委員であるが、各施設の評価の聞き取りやアンケートなどの分析を行っている。施設に関する要望については、アンケートなどを用いて伝えないと、対応ができないため、是非活用してほしい。

指定管理者はよく管理運営しているが、単独では難しいこともあり、もう少しずつ良くすれば使い勝手が良いこともあるため、協力してほしい。施設が足りないからと大規模施設を1つ作るのではなく、今ある施設それぞれを改善することが、スポーツツーリズムの面からも有効である。

(加納委員)

本日は各委員の実績に基づく良い意見が聞け、本業においても有効であると感じた。また、オンラインでの参加にご協力いただき、ありがたい。

(2) その他

(島本部会長)

その他、全体を通じて委員の皆さまよりご意見があるか。

本日の各委員からの意見は、5月14日の審議会において私から報告させていただく。

以上で全ての議事を終了する。進行を事務局にお返しする。

### 3 閉会

(事務局)

部会長をはじめ、委員の皆様方におかれましては、夜間に長時間にわたりご審議をいただき、御礼申し上げます。

本日、委員の皆様からいただいたご意見等については、全体の審議会及び、今後の検討作業に反映させていただく。

それでは、以上をもって、第1回東広島市総合計画審議会人づくり部会を終了とする。誠にありがとうございました。

以上